

第11回奥州前沢劇場

牛になつた少年

(原作：匂坂日名子氏)

第11回奥州前沢劇場「牛になつた少年」は2月20日、前沢ふれあいセンターで上演されました。午前と午後、2回の公演が行われ、詰め掛けた計900人の観客が、市民手作りの舞台を鑑賞しました。

今回の作品は、昨年、日本一に輝いた郷土の銘柄牛「前沢牛」を題材としたもの。「牛になりたい」と願う小学生の修太が「モーモー」としか話せなくなる奇病「モーモー病」にかかり、ストーリーは動き出します。牛への愛や、団結する前沢の人たちの心を、ユーモア溢れる演技でつくり上げました。

一番の見せ場となった祭りの場面では、役者たちが病気の治癒を願う迫真の演技を披露。会場全体を感動の渦に包み込みました。

1 修太は小学校の授業参観で「僕は将来牛になる！」と宣言。同級生や家族に笑われてしまう 2 修太だけでなく、同級生や大人にもモーモー病が広がってゆく 3 原因究明のために牛が隔離されることに。牛飼いである修太の祖父は、自分たちがどれだけ牛に手を掛けているのかを訴え、強く反対する 4 「前沢で奇病が蔓延」と全国に報道され、まちが暗くなる中、住民たちは牛に感謝する祭りを企画する 5 みんなが牛の大切さを再認識し、病気を治してほしいと懸命に神様へ訴え掛ける 6 公演終了後、出演者たちは晴れやかな表情で観客を見送った



1 胆沢を治める七郎次は、胆沢川の水源地で記憶を失い倒れていたおシゲ（シゲイラ）を助ける 2 堰掘り工事は人夫のいさかいなどで、思うようには進まなかった 3 おシゲは、思いを寄せていた七郎次に、縁談話が持ち上がっていることを知る。邪心に目覚め、災いを起こしてゆく 4 友を助けようと、荒れ狂う堰へ飛び込んだ七郎次。シゲイラはその後を追う 5 犠牲を払いながらも堰が完成し、豊穡の地となった胆沢。みんなが一つになり田植踊りで喜びを分かち合う 6 昨年亡くなったタマ・チャールズ（本名・玉山秀之）さん作曲の「奥州胆沢劇場の歌」を全員で歌い、幕を下ろした

こととして27回目を数える奥州胆沢劇場「シゲの奇跡」は、井羅堀異聞は2月27日、胆沢文化創造センターで上演されました。2回の公演で計1400人の観客が来場し、4半世紀を越える伝統の舞台を堪能しました。

今回のテーマは「大地とのきずな」。400年以上前に開削された井羅堀が題材となっています。日照りで苦しむ胆沢を舞台に、堰掘り工事に挑む人々と、妖力を持った狐・シゲイラが織り成す愛と感動の物語です。

胆沢劇場にかかわった人たちは総勢250人。1月の旗揚げから、けいこや準備を重ね、本番を迎えました。プロ顔負けの演技や、凝った舞台装置などに、観客席から惜しめない拍手が送られました。



シゲの奇跡

井羅堀異聞 (原作：菊池 単氏)

第27回奥州胆沢劇場